

## オーガニックコットン栽培農家さんをご紹介します。 第8回 小林勝弥さん(65歳)と奥様の美知さん

いわき市平下大越地区の小林さんの自宅は太平洋沿岸から500メートルの所にあります。一面に農地が広がる農業振興地域です。平成23年の東日本大震災の時は80センチほどの津波が農地を襲いました。地震により50センチの地盤沈下があり水路も崩壊してしまったため、現在は農地基盤整備事業が地域一帯に進められています。

小林さんご夫妻は有機JAS認定を震災発生直前に取得していました。現在「いわき夏井ふぁーむ」を営み無農薬、有機栽培でジャガイモ、里芋、春菊など数種類の野菜の栽培をしています。「安全・安心・おいしいをお届けする」を掲げ地元での販売や「(株)大地を守る会」との契約栽培を行っています。

小林さんがオーガニックコットン栽培を始めた事情は他の農家さんとは少し違っています。震災後間もなく、本会が立ち上げた小名浜地区災害ボランティアセンターの理事長とは以前から交友があったため津波被害の瓦礫撤去を依頼しました。地区的には小名浜から10キロ以上離れていましたが、完了するまでボランティアを派遣し続けました。

震災後6年となりましたが、以前バスツアーで訪れていたボランティアさん達の中から「かりんの会」が生まれ現在も交流が続いています。この名付けの由来は小林家の12歳の老犬からとったものだそうです。

今は家族や友人に広がりを見せ、15人ほどが東京から年5回コットン栽培の手入れにやってきました。この方々のためにも続けなくてはと語るご夫妻の姿からは有機野菜づくりへの情熱と共にオーガニックコットン栽培への愛着が伺えます。「栽培は勝弥さん。私は出荷などの後方支援しかしません」といいながらも常に息ピッタリの素敵なご夫妻です。



## 「ぼくとわたしの海辺のクリスマス」2016を開催

毎年恒例の「ぼくとわたしの海辺のクリスマス」を、昨年12月25日、いわき・ら・ら・ミュウ2F研修室を会場とし開催しました。いわき市内に居住する子供たちに交流の場を創出することを目的として、被災に負けないふくしまの子供たちへの応援を掲げて毎年実施してきたクリスマス会は、今年で6度目の開催となります。

子供たちに対する環境教育を盛り込もうと、今年はクリスマス限定の「オーガニックコットンベイク(エンジェル)」と「オーガニックコットンのオリジナル手ぬぐい」という2つの作品づくりにチャレンジしました。(この事業は台湾共同募金支援事業で開催しています)

クリスマス当日ということで、参加者全員クリスマスムード一杯でした。コットンベイクのエンジェルを見ると皆一斉に「かわいい!絶対クリスマスツリーに飾りたい!!早く作ろう!」と興奮ぎみの子も…。作り方の説明にそって、子供たちは一生懸命挑んでいました。一方、「オーガニックコットンのオリジナル手ぬぐい(シルクスクリーン)」では、専門の講師を招き、数十種類ある版(絵柄)を自分好みに選んでは、無地手ぬぐいを前にどんな角度にシルクスクリーンをするか悩んでいる子が沢山いました。無事に刷り上がった手ぬぐいを見て、子供たちは「すごくキレイに出来た!」「自分用の手ぬぐいだ!ママ見て!いいでしょ?」と大はしゃぎでした。今回の体験を通して、ものづくりの楽しさやチャレンジすることの面白さを体感してくれたようでした。

また、休憩の際には「パルシステム福島」様からのご支援でお菓子やジュースを頂きました。最後にはメインイベントとして毎年恒例の「ビンゴゲーム」を開催。大盛り上がりの中、無事に大成功で終わることが出来ました。



## 浜風さららに出店

いわき市北部久之浜地区の海岸エリアは、震災の際に地震・津波・火災、そして原発事故による避難という複合災害に見舞われた地域です。当時、瓦礫ばかりになってしまったその地域に花を咲かせようと、「ガレハナ」という絵を残った建物の壁や基礎部分にボランティアの人たちが描いていたことを記憶している方も多いでしょう。この地域に、今商業施設の建設が進められています。その名前は、「浜風さらら」。郵便局や商工会、食品スーパーなどが入ることになっています。その建物の一角に、本会では古着のチャリティショップを開設することになりました。

それは、「地域の中に衣類を販売する店舗がない現状を変えるために出店してくれませんか?」というお誘いを頂いたことで実現しました。近くに建設されている災害公営住宅にお住まいの方々やこれからこの地域に戻ってこられる方々にとって、憩いの場になればと願っています。グランドオープンが4月20日。地域の方々を心待ちにしたいと思います。

## 熊本訪問・支援活動を終えて

昨年12月16~18日の3日間、東日本大震災からお世話になっている熊本県玉名市に本部を置くNPO法人れんげ国際ボランティア会の力添えを得て、熊本市藤山仮設住宅団地の集会所で講話と支援活動を実施してきました。



「仮設生活において活かせる知恵(ヒント)」をテーマに、本会の活動資料等を教材として、お茶やお菓子を頂きながら話を聞いて頂く茶話会形式での開催としました。講話のポイントは「挨拶・防犯・健康・趣味」の4つ。「挨拶」では顔の見える関係の大切さ。「防犯」では火災の危険性や見守りの大切さ。「健康」では体操教室の効能。「趣味」ではサークル化のポイント。これらの内容を説明させて頂きました。参加された40名弱の地震被災者の方々は、時折うなずきながら熱心に話を聞いてくださいました。

講演後はワークショップを開催し、「お正月飾り」をお花の先生指導の下、皆で作りました。花いっぱい飾られた正月飾りを皆で見比べながら、各々の作品発表をしました。ワークショップの合間の参加者との会話の中で、「この藤山仮設はこんな山奥にあるから、他の仮設より注目されないよ…ほとんどの支援は益城町(主に震源中心地)とかにまわるよね…置き去り感はあるかもしれないけど…でもここでの生活が嫌とは思わないよ、沢山の人が住んでいるから、それに、あなた達のような嬉しいボランティアに出会えたし」と笑顔で話されていたのが印象的でした。

最後に福島県いわき市で栽培されたオーガニックコットン(綿花)使用の手作り人形「モンキーベイク」を一人一人に挨拶を交わしながら手渡しました。「災いが去る(サル)」をモチーフに作られたモンキーベイクを手に取り「とても嬉しい、本当にありがとう心から感謝するよ」「とっても可愛いありがとう!絶対孫が喜ぶよ」と、喜びの声が多々聞かれました。また、午後からは参加された男性の方が、私達が福島から来た事にすごく驚き「遠い所から遥々ご苦労さまです。気を付けて帰るんだよ、いつでも熊本において」と気にして下さいました。

なお、今回の熊本訪問は、福島県「ふるさとふくしま交流・相談支援事業」として採択されている「福島県いわき市を中心とした『置き去りゼロ』チャレンジ事業STEP1」の「つたえる」事業の一部として実施されました。

## 全国の皆さん 綿の送付有り難うございます。

コットンの収穫が終わる12月になると、全国からオーガニックコットンが事務局に送られてきます。今回で5回目の栽培となります。今年も60人ほどの方々から収穫までの様子や感動を綴った手紙、中には微笑ましい写真を添えて下さる方もいます。

全国的に気候に恵まれたのか今年の綿は、どの地域の綿も太っていていい綿ばかりです。さいたま市のチーム農援隊の皆様は、有機栽培でおそばを栽培していますが、その傍らコットン栽培チームを結成し今年で3回目。今回は17.8キロのコットンをお届け頂きました。又、柏コットンプロジェクトの皆様からは18キロのコットンをお届け頂きました。

全国の皆様、コットンの提供本当に有り難うございました。



昨年秋に収穫された種を送っていただき、我が家で大切に育てたオーガニックコットンが収穫出来ました。  
…(略)

我が家のちび達は肌が弱くて苦しんでおりましたが、オーガニックコットンのお洋服を着せてやるようになってからは、真っ赤にただれたり、キーンキュン鳴きながら掻きむしる事もなくなりました。ちび達が助けていただいたオーガニックコットン…来年もまた育てたいと思います。

●大阪市 松岡様から嬉しいお便りと写真が届きましたのでご紹介します。



## 新年度のコットンの種を差し上げます!!

いわきの農地にボランティア支援に入って下さった100人を越える方々からコットンの種の準備が出来次第送って欲しいとの要望が寄せられていました。メンテナンスを終えたばかりの綿繰り機をフル稼働して、12月迄に収穫した綿を種と綿とに分離する綿繰り作業を始めます。

小さなジッパーに30粒程の種を詰め、栽培の説明書を添えて近々お送りいたしますので、お待ち下さい。なお沢山の種を希望する方は有料になる場合もありますのでご相談ください。

私たちの活動を会員として支えて下さい。  
会費納入をよろしくお願い致します。

会費：活動会費(実際に活動に参加される方と、会報の講話という形で支援して下さる方) 2,000円/年

賛助会員(資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員) 10,000円/年

郵便振替(02110-0-24908)でお送りください。